中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業 縁の里づくり委員会について

金城支所自治振興課

浜田市が新市まちづくり計画において重要施策に掲げている「地区まちづくり推進委員会」の金城自治区におけるモデルケースとして、波佐地区と小国地区を選定し、平成20年度から県の事業を活用し、創設期の支援を行っています。

1. 地域の概要

波佐地区(人口:611人、世帯数:238戸、高齢化率:41.57%) 小国地区(人口:258人、世帯数: 92戸、高齢化率:42.25%)

両地区ともに高齢化が進み活動できる人材が多いとはいえないことに加え、地域内に多くの団体が存在しているが活動目的・内容が異なることや、各集落によって状況の違いもあることなどから、これらの連携・協調、また意識統一を図ることが重要となっていた。

2. 縁の里づくり委員会の設立

こうした状況の中、地区まちづくり推進委員会の設立を県の事業を活用して働きかけた結果、既存組織(自治会、農事組合法人・営農組織、温泉館運営組合など)と調整・連携・協働して「安全・安心の地域づくり」と「地域活性化対策」を具現化させていく「縁の里づくり委員会」が平成20年9月に誕生しました。

3. 中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業の経過

- 1) 支援事業の内容
 - 事務所の借り上げ経費 事務機器のリース 地域マネージャー2名の人件費
 - 産直市の試行実験、安全安心対策など事業実施経費(以下のとおり)
- 2) 事業実施内容(組織育成経過)
 - 平成20年度事業 「組織の立ち上げを行い、課題を把握して取り組み開始」
 - ・組織立ち上げ支援を行い、平成20年9月に縁の里づくり委員会が設立された。
 - ・地域課題の把握のため全戸によるアンケート調査実施。
 - ・地域課題を「安全・安心の地域づくり」と「地域活性化対策」に集約。
 - ・地域活性化対策として、産直市の試行実験開始。(オープン準備と記念行事の実施)
 - 21 年度事業 「課題の詳細分析と取り組みの本格化」
 - · 地域活性化対策

産直市の試行実験を本格的に実施。

栽培講習会の実施。

地域活性化対策を主に担うNPO法人「えにしの里」設立。

地域活性化の拠点施設として「地域振興施設」の建設を市に要望。

都市交流事業の実施(田舎体験ツアー(秋祭りにおける農家民泊))

・安全・安心の地域づくり

集落ごとのワークショップ実施。

安全・安心マップ作成開始。

戸別緊急連絡カードの作成と配布。

その他

地域活性化大会の開催(平成22年2月28日予定)

波佐・小国地域活性化計画の策定開始

縁の里づくり委員会として音響設備の導入を要望(平成22年度宝くじ助成事業)

- 平成22年度事業(予定) 「継続への探求と取り組み拡大」
- 地域活性化対策

産直市の試行実験継続。

都市交流事業の拡大実施(大手旅行代理店と連携して通年実施を検討) 地域振興施設への農産物出荷計画(作付け調整)の策定検討。

・安全・安心の地域づくり

集落ごとのワークショップを精査し、課題解決に向けた取り組みを順次開始。 安全・安心マップにおける防災版の完成を目指す。

高齢者見守り活動の試行実験(雪かきボランティア、買物代行を想定)

• その他

地域活性化大会の開催 (時期未定)

波佐・小国地域活性化計画の策定

4. 取り組み成果

地区まちづくり推進委員会「縁の里づくり委員会」が誕生したことにより、住民自らが地域課題の把握を行い、解決に向けた試行実験や組織の立ち上げを行い、「波佐・小国地域活性化計画」を策定された。

平成22年度においては地域振興施設の建設に向けて宝くじ助成を申請しており、地域活性化対策の基盤として施設整備を行うほか、安全・安心な地域づくりについても各種試行を行い、金城自治区のモデルケースとしたい。

なお、浜田市としては、平成22年度を創設期の締めくくりの年として位置付け、地域 自ら策定を行った「波佐・小国地域活性化計画」に基づいて段階的に取り組みを開始し、 平成23年度以降の実施においては、NPO向け助成事業などを取り入れつつ、地域が自 立した事業の継続をテーマとして組織の育成を図っていきます。

5. 地域活性化大会について

これまで課題の集約や試行実験を行った結果、「波佐・小国地域活性化計画」を策定することができ、今後着実に課題解決に向けて「安全・安心の地域づくり」と「地域活性化対策」の2本柱により実施していく計画となっている。これらの成果を発表し、地域の連携を深め、総力を結集することで「地域力」の向上を図ることを目的としている。